

【統合分野】

授業科目名		在宅看護論概論			
担当講師					
実務経験の有無		有・無	実務経験内容		看護師、MSW
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次	2 年次前期
目的		在宅看護の対象を個人としてだけでなくケアの最小単位である家族とし、様々な価値観や人生観をもった生活者として理解できる。そして、その人らしい生活と自立に向けた看護を行うため、他職種の専門性を理解し協働する中での社会資源の活用やマネジメントする基礎的能力を習得する。			
到達目標		1. 在宅看護を取り巻く社会の現状を踏まえ、地域保健医療福祉活動における、在宅看護の位置づけについて理解できる。 2. 在宅療養者と家族の特徴と、権利保障について理解できる。 3. 社会資源の活用や他職種との連携を学び、その人らしい生活を支援する方法を理解できる。 4. 保健医療福祉活動における、訪問看護師の役割、継続看護について理解できる。			
回数	授業内容				授業方法
1	在宅看護の目的と特徴 在宅看護の機能と役割、在宅看護における看護倫理				講義
2	訪問看護の歴史、保健医療福祉の動向				講義・GW
3	対象者の特徴				講義
4	家族看護				講義
5	在宅療養の支援				講義
	外来看護、訪問看護、施設内看護				
6	療養の場の移行				講義
	退院支援・退院調整、地域連携クリティカルパス				
7	在宅看護にかかわる法令・制度				講義
	介護保険制度、医療保険制度など、訪問看護制度など				
8	訪問看護制度、介護保険制度				講義
	介護保険制度、医療保険制度など、訪問看護制度など				
9	社会資源活用・ケアマネジメント (1)				講義・GW
10	社会資源活用・ケアマネジメント (2)				GW
11	社会資源の活用における看護師の役割、他職種との連携				講義
12	在宅看護における安全性の確保				講義
13	災害時の在宅看護、対象者の権利保障				講義
14	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 (1)				講義・GW
15	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 (2)、まとめ ※三村師長の範囲 第2章B 第3章B・C・D				講義・GW
教科書					
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 別巻 家族看護学 国民衛生の動向					
評価方法・基準					
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。					

授業科目名		在宅看護援助論 I		
担当講師				
実務経験の有無		有 ・ 無	実務経験内容	看護師
単位・時間数		2 単位 45 時間	開講年次	2 年次後期
目的		医療施設内と違い、在宅における看護職は医師や他の看護職からの直接的な支援が受けられる状況にない。そのため、在宅では看護師自らが判断し、行動する主体性と判断力、看護技術を応用する創造性が必要である。したがって日常生活援助や医療処置を必要とする対象が安心して生活できるよう支援するため、これまで学んできたことを基に、生活の場で実践できる看護技術を習得する。また、終末期にある人が安心して在宅で生活できるよう、在宅ターミナルおよび看取りの看護の基礎的能力を養う。		
到達目標		1. 地域で療養する人々とその家族の抱える問題を解決するために必要な援助の方法を理解できる。 2. 医療処置を必要とする療養者及び家族が、安心して生活できるための援助を理解できる。 3. ターミナル及び看取りへの看護について理解できる。		
回数	授業内容			授業方法
1	在宅におけるフィジカルアセスメント			講義
2	在宅看護技術 食生活・嚥下			講義・GW
3	在宅看護技術 清潔			講義・GW
4	在宅看護技術 排泄			講義
5	在宅看護技術 移動			講義
6	医療処置を伴う援助 在宅酸素療法 (HOT)			講義
7	医療処置を伴う援助 非侵襲的陽圧換気法 (NPPV)・在宅人工呼吸療法 (HMV)			講義
8	医療処置を伴う援助 経管栄養			講義
9	医療処置を伴う援助 在宅中心静脈栄養法 (HPN)			講義
10	医療処置を伴う援助 膀胱留置カテーテル・膀胱洗浄			講義
11	医療処置を伴う援助 ストーマ管理			講義・GW
12	医療処置を伴う援助 褥瘡			講義・GW
13	介助の必要な療養者への清潔援助(1) 福祉用具の活用			講義・GW
14	介助の必要な療養者への清潔援助(2)			GW
15	介助の必要な療養者への清潔援助(3)			GW
16	吸引・経管栄養・排便(1)			演習
17	吸引・経管栄養・排便(2)			演習
18	脳血管疾患の療養者と家族の看護			講義・GW
19	ALS の療養者と家族の看護			講義・GW
20	認知症高齢者と家族の看護			講義・GW
21	外来がん治療の支援			講義・GW
22	終末期にある療養者と家族の看護(1)			講義・GW
23	終末期にある療養者と家族の看護(2)			講義・GW
教科書 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 別巻 緩和ケア				
評価方法・基準 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 80 点、課題 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名		在宅看護援助論Ⅱ		
担当講師				
単位・時間数		1 単位 15 時間	開講年次	3 年次前期
実務経験の有無		有 ・無	実務経験内容	看護師
目的		訪問看護では対象の生活の場に出向くため、看護者としての倫理・人間性が求められる。そのため、人間関係を展開していくためのコミュニケーションやマナーを身につける。また、事例を通して、在宅で看護を実践するための応用力を習得する。		
到達目標		1. 療養者や家族と円滑な人間関係を図るためのコミュニケーションや訪問に必要なマナーを身につけることができる。 2. 事例展開を通して、療養者と家族へのその人らしい生活や自立に向けた看護が理解できる。		
回数	授業内容			授業方法
1	在宅看護過程の特徴 事例展開 終末期ケア（情報の整理・アセスメント）			講義・GW
2	同行時のマナーについて 同行訪問時の服装・態度・言動 訪問看護師の役割について			講義・演習
3	事例展開 終末期ケア（アセスメント）			GW
4	事例展開 終末期ケア（看護計画）			GW
5	看護の実施			演習
6	看護の実施			演習
7	評価			GW
8	まとめ			GW・講義
教科書 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
評価方法・基準				
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名		医療安全		
担当講師				
実務経験の有無		有 ・ 無	実務経験内容	看護師・医療安全管理者
単位・時間数		1 単位 30 時間	開講年次	2 年次前期
目的		高度化・複雑化してきている医療を取り巻く環境の中で、健康回復を目指して生活する人、それを取り巻く人々の安全を守るために医療安全教育は重要である。最終的な医療行為者、観察者となる看護者として、事故防止の視点から知識・技術が理解できる。		
到達目標		1. リスクマネジメントの基礎を学び、医療・看護事故の概要と医療者の責任について理解できる。 2. 看護における安全性について理解し、事故を防ぐための技術について理解できる。 3. 事例を基に看護者としての事故予防対策について理解を深めることができる。		
回数	授業内容			授業方法
1	医療安全を学ぶことの大切さ			講義
2	事故防止の考え方			講義
3	診療補助業務に伴う事故防止（注射業務、医療機器、輸血業務編）			講義
4	診療補助業務に伴う事故防止（内服・与薬業務編）			講義
5	診療補助業務に伴う事故防止（チューブ管理編）			講義
6	療養上の世話における事故防止（転倒・転落事故防止編）			講義
7	療養上の世話における事故防止 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因			講義
8	KYT(危険予知トレーニング)(1)			講義・GW
9	KYT(2)			GW
10	KYT(3)			GW
11	KYT(4)			GW
12	RCA(根本的原因分析法)(1)			講義・GW
13	RCA(2)			GW
14	医療安全とコミュニケーション(1)			DVD 視聴
15	医療安全とコミュニケーション(2)、組織的な安全管理対策			講義
教科書 系統看護学講座 統合分野 医療安全				
評価方法・基準 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名		看護の統合		
担当講師				
実務経験の有無		有 無	実務経験内容	看護師、災害支援ナース、看護管理者 青年海外協力隊保健師隊員
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次 3 年次前期
目的		災害看護と国際看護を学ぶことにより、プライマリーヘルスケアの理念の下、様々な対象・地域・状況・価値に合わせた看護が提供できる基礎的能力を習得する。また、看護管理を学び看護を円滑に行うための基礎的知識を習得する。		
到達目標		1. 災害を健康・医療・看護の視点から学び、災害サイクル各期の特徴および看護を理解できる。 2. 災害時の看護の役割を理解し、看護ケアについて考え、災害直後から支援できる看護の基礎的知識・技術について理解できる。 3. 国際看護学の概念を学び、多様な文化・価値観による保健医療、健康、看護の格差について理解できる。 4. 国際社会における医療・健康に関する問題と看護の国際協力における基礎的なシステムを理解できる。 5. 看護管理の意義・目的について学び、チーム医療、他職種との協働の中での看護者としての役割を理解できる。		
回数	授業内容			時間内訳・授業方法
1	「災害看護」			16 時間
2	災害看護の歴史、現状			講義
3	災害医療に関する基礎知識			講義
4	災害各期の看護			講義
5	災害各期の看護ニーズ			
6	急性期・亜急性期			講義・演習
7	慢性期・復興期			講義・演習
8	静穏期			講義・演習
9	災害各期における要援護者への看護			講義・演習
10	災害看護の今後の課題・ケア			講義・演習
11	国際看護：世界の健康問題と国際協力			4 時間
12	国際看護：プライマリーヘルスケア、国際社会における看護活動			講義
13				講義
14	看護管理（1）小管理・意思決定支援			10 時間
15	看護管理（2）他職種に関心をもつ			講義
16	看護管理（3）組織にとって大切なこと			講義・GW
17	看護管理（4）キャリアデザインのレポート			GW
18	看護管理（5）統合実習後の GW			GW
教科書				
災害看護	系統看護学講座	統合分野	災害看護学、国際看護学	
国際看護	系統看護学講座	統合分野	災害看護学、国際看護学	
看護管理	系統看護学講座	専門分野 I	看護学概論	
	系統看護学講座	統合分野	看護管理	
評価方法・基準				
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。				
2. 筆記試験は 100 点満点（災害看護 50 点、国際看護 15 点、看護管理 35 点）とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名		看護研究		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数		1 単位 30 時間	開講年次	3 年次前期
目的		看護の専門職者としての責務は、看護実践の専門性を追及し、ケアの質の向上を目指していくことであり、根拠に基づいた有効な看護ケアを追及するためには、研究を通して、看護実践の基礎となる科学的知識体系を発展させていく必要がある。 看護における研究の意義を理解し、研究的態度を身につけることで将来の研究活動の基礎を養う。		
到達目標		1. 看護における事象や現象を科学的に追求し、問題を解決できる。 2. 研究プロセスを通して、研究的態度を身に着けることができる。		
回数	授業内容			授業方法
1	看護研究とは 看護研究の目的・意義、研究テーマの絞り込み 文献検索とは、研究の種類・方法とは 研究計画書の意義・内容			講義
2	「なぜどうして」は研究になり得るのか 研究計画書を用いて疑問を考えてみよう			GW
3	疑問と研究になるのかについての発表・まとめ			発表
4	研究活動の実際 看護研究活動の流れ、文献検索の仕方 研究目的・種類と方法			演習(情報処理室にて)
5	テーマの絞り込み、論文の構成と書き方 倫理的配慮、テーマの絞り込み、研究計画書作成			講義
6	研究計画書について深める			
7	計画書作成			
8	卒業論文作成 個人で文献検索、計画書作成、担当教員との面談			GW 個人ワーク
9	看護観とは、書き方			個人ワーク、面談
10 ～15	卒業論文作成 ・ はじめに ・ 事例紹介 ・ 看護の実施・評価 ・ 考察 ・ 結論 ・ おわりに ・ 引用・参考文献 ・ 要約 看護観作成			講義 個人ワーク
教科書 系統看護学講座 別巻 看護研究				
評価方法・基準 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 40 点、卒業論文は 60 点を合わせて 100 点満点とする。 ただし、筆記試験・卒業論文ともそれぞれ 6 割以上を合格とする。				

授業科目名		看護技術統合演習Ⅰ		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数		1 単位 15 時間	開講年次	2 年次後期
目的		臨地で個別性に応じた安全な看護を実践するためには、学内で習得した知識・技術・態度の統合をはかること、基本的な看護技術を確実に習得していることが必要である。そのため「看護技術統合演習」を通して、段階的に知識・技術・態度を統合した看護実践能力を習得する。		
授業目標		対象に応じて基本とする看護技術を組み合わせて一連のまとまりのある看護が実施できる基礎的能力を身につけることができる。		
回数	授業内容			講義方法
1	事例の患者の観察項目を列挙する 事例の患者の疾患・観察項目・観察技術について（グループ毎に観察する） 事例に基づく急性期にある患者の看護（行動計画の具体的な立案） ＊患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術の修得 急性期にある患者の事例：実施・計画の追加・修正 事例に基づく回復期にある患者の看護：（行動計画の具体的な立案） 回復期にある患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術の修得（1） 回復期にある患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術の修得（2） まとめ			GW・講義
2				講義・演習
3				GW・演習
4				GW・講義
5				GW・演習
6				演習
7				演習
8				講義
教科書 講師資料				
評価方法・基準				
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。				
2. 実技試験 80 点、課題 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				

授業科目名		看護技術統合演習Ⅱ		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数		1 単位 15 時間		開講年次 3 年次後期
目的		臨地で個別性に応じた安全な看護を実践するためには、卒業の時点で看護職として基本的な看護技術を確実に習得していることが必要である。そのため看護技術の到達度を明確にするために総合的な評価を行い、卒業時に求められる看護実践能力を習得する。		
授業目標		基礎分野、専門基礎分野、専門分野で習得した知識、技術、態度を統合し看護が実践できる基礎的能力を身につけることができる。		
回数	授業内容			講義方法
1	科目ガイダンス（専門職業人である看護師として、組織の中で働く一員であることを自覚するために、自分の働く病院を理解（病院の理念・基本方針・看護部の理念・基本方針など）し、看護観を再構築する ➢ 科目位置づけ・概要・目的・目標、学習スケジュール・進め方 ➢ 模擬病院紹介、模擬病院で働く上で、看護観をもとに看護師としての目標の明確化 ➢ 事例発表（A・B・C）3 事例、優先すべき情報は何かを判断する			講義 個人ワーク後、GW
2				模擬病棟での複数受け持ち患者の事例展開 ➢ 優先すべき情報から身体的・精神的状態をアセスメントし、健康障害と治療が日常生活にどのような影響を与えているか分析し、看護の方向性を記述する。状況・状態から今日の予定をあげ、援助の必要性を考える。 複数患者受け持ち時の 1 日の看護計画立案 ➢ 病棟管理者業務・病棟日勤業務のタイムスケジュールを確認し、1 日の流れをイメージしながら計画する ➢ 根拠を明確にししながら優先順位判断と時間配分を考慮した看護援助を考える
3	起こりうる問題と対処方法について検討し、深める ➢ 午前、午後のケアの計画調整・修正 ➢ 午前・午後の患者の状態・環境の変化について時間をおいて追加設定を聞き、計画の調整・修正を行う			個人ワーク後、GW 発表
4	患者に応じた観察・援助（コミュニケーションも含む）技術の習得 ➢ 「今日の目標・行動計画」にそってグループで実際に観察・援助を行い、知識・技術・態度の統合をはかり、実践力を身につける ➢ 患者役・看護師役は交代で実施し、各自の技術・態度についてディスカッションし、相互に評価を行う。そこから、自己の課題を明確にする			GW（実習室）
5	統合演習Ⅱの演習			演習
6	➢ 教員が事例 A・B・C 氏の患者役になり、学生 2 名が看護学生役で実施 ➢ GW 振り返ったのち、再度 2 名の学生に実施			
7	夜間勤務者への報告内容準備 ➢ グループで報告事項をまとめ、夜勤者への報告を実施する			GW
8	看護技術統合演習Ⅱのまとめ（45 分）			講義
教科書 系統看護学講座 統合分野 看護管理 講師資料				
評価方法・基準				
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。				
2. 実技試験 90 点、課題 10 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。				